

## 技術協力活動と研修活動の連携

### 第3回：技プロとの連携型

技プロと本邦研修との連携の試案として、アフガニスタンにおける事例を考えてみたい。かつてアフガニスタンは、労働人口の約8割が農業に従事する農業国であった。しかし内戦による灌漑施設の破壊や干ばつの影響で農業生産は大きく落ち込み、現状では海外からの食糧援助に頼っている。国際協力機構は、カンダハル農業緊急復旧支援等緊急度の高いプログラムから開始し、引き続き灌漑復旧、農牧業復興、農村環境改善等に焦点を当てたプログラムを実施している。この中の農業試験研究強化プログラムとしてカブール中央農業試験場の基盤事業整備が既に開始されているが、長年の研究機関の活動停止による技術者不在から今後当該試験場を担うべき研究者、技術指導者の能力向上が不可欠になってきている。



カブール中央農業試験場

そこで本案件を参考にして技プロ活動と本邦研修の連携の案を考えてみた。現在、現地の技プロによる専門家派遣、資機材整備が実施されているが、これに加えて本邦研修業務による専門技術者の育成（例えば国別特設による研修）を組み合わせることにより、迅速かつ効率的に当該試験場の活性化が実現出来ると考えられる。

カブール中央農業試験場のスタッフは既に日本国内での研修に参加しているが、このように海外での技プロの実施と国内での技術研修とを連携させることによって一貫的な支援活動が可能になり、具体的には以下に示すような様々な利点が得られる。そして、このことはアフガニスタンにおける早期の農業生産性向上と生産の安定化に必ず繋がるものと考えられる。

- カブール中央農業試験場で実施される技プロの下では、日本人専門家とカウンターパートチームが包括的な農業試験研究及び普及事業強化の基本プログラムを策定することができる。
- 策定されたプログラムに基づいて必要とされる研修内容の詳細を検討し、研修内容に応じて適正な研修課題と研修員候補を選定することができる。
- 日本国内の国別特設研修においては、研修員が帰国後実施すると想定される作物栽培試験や節水灌漑関連試験ならびに普及手法に関する研修を集中的に実施することができる。
- 技プロにより供与される資機材の運用について国内で実習し、円滑な研究・普及資機材の活用・運営を促すことが出来る。
- 帰国研修員が技プロに戻った際には、研修成果を現場で十分に活用することが出来る。つまり、研修のフォローアップは技プロの下で自動的に実施されることになる。



過去のAAIニュース研修シリーズのまとめである48号で取り上げたように、これまでの研修事業においては適正な人選と現地のニーズに応じた研修内容を確定することが重要な課題と考える。一方で、研修を実施する側としては、技プロとの連携により適正な人選が確保されるだけでなく、研修内容の絞込みも容易になるという利点がある。加えて、技プロ側としても、C/Pに必要とされる適正研修課題を提供でき、その技術的向上が確保されるだけでなく、より親日的になって帰国する研修員達の活動を通して多くの波及効果が期待できる。今回、取り上げたアフガニスタンの技プロはひとつの事例であり、他の多くの技プロにおいても国内における研修活動と連携させることによって効率的な活動が実施できるようになり、このことは技プロと本邦研修の双方の協調により補完的機能を持たせる良い事例に成り得ないであろうか？